

令和7年度第2回理事会（令和7年5月24日）承認

A005982 令和6年度事業報告書

令和 6年 4月 1日から
令和 7年 3月31日まで

公益社団法人日本グライダークラブ

公益社団法人日本グライダークラブは、内閣府所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された公益社団法人です。その目的と主な事業内容は定款に以下のように示されています。

【目的】第3条 本クラブは青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もって我国グライダー界の発展に資することを目的とする。

【事業】第4条 本クラブは前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) グライダーの啓蒙・啓発・普及に関する事業
- (2) グライダー及び曳航機の操縦技術の向上、及びその指導者の養成
- (3) グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運航・事故防止対策に関する研究並びにその施策
- (4) グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
- (5) この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
- (6) その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

当クラブでは定款に掲げる理念のもと、令和6年度事業計画に基づき、令和6年4月～令和7年3月期は下記の通り公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。令和7年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します

A. 公益目的事業 1（公1）グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成

A-I. グライダー普及のための体験搭乗会

期間：令和6年4月～令和7年3月の各週末・祭日

主催：公益社団法人 日本グライダークラブ

参加人数計：150名

A-I-1. クラブのホームページでの一般向け体験搭乗の実施

参加人数：57名

A-I-2. 地元板倉町のふるさと納税の返礼品としてのグライダー体験搭乗の実施

参加人数：7名



A-I-3. 会員・賛助会員・家族・友人搭乗会の実施(毎月第3土曜日)

参加人数 : 59 名

複座機利用練習生が増えていることから会員の搭乗機会とのバランスを保ちながら実施した。



A-I-4. 地域住民の理解増進のためモーターグライダーによる体験搭乗の実施

近隣にお住いの皆様に我々の活動をより知っていただくことを目的とし、モーターグライダーによる体験搭乗会を実施した。

期間：令和6年11月2日（雨天中止）、11月3日、11月4日、11月9日

対象：板倉町第一行政区（除川、西岡、西岡新田の3地区）の方、小学5年生以上

参加人数：計27名（11月3日10名、11月4日7名、11月9日10名）

ケーブルテレビ館林の取材があり、ぐんまHOTステーションで放映された。



A-II. 安全なグライダー・モーターグライダー操縦士の育成

土、日、祭日の通常運航日の操縦訓練（一般的な操縦訓練）並びに金曜にモーターグライダー中心の操縦訓練を実施（原則3名以上の参加がある場合に開催）。

A-II-1. パイロットの養成（技能証明取得のための訓練）

期間：令和6年4月～令和7年3月の各週末、祭日、および週日

参加人数：グライダー練習生12名、グライダーライセンスリフレッシュ訓練1名、モーターグライダー練習生5名、モーターグライダーライセンスリフレッシュ訓練1名

概要：滑空機（上級・動力）技能証明取得、技能証明保持者のリフレッシュのための学科および操縦技術について、座学および飛行訓練を実施した。



A-II-2. 指定航空従事者養成施設 板倉訓練所の維持管理

期間：令和6年4月～令和7年3月の各週末、祭日、および週日

参加人数：

概要：指定航空従事者養成施設 教育規定で定められている教育施設の維持管理、学科教官5名、実技教官4名の技能確認を実施し、（公社）日本滑空協会 指定航空従事者養成施設を維持した。

A-II-3. クロスカントリーフライトパイロットの育成

① 高性能グライダーによるクロスカントリーフライト

期間：令和6年4月～令和7年3月の週末、祭日

参加人数：15名

概要：高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、関東周辺から日本アルプス、東北地方への長距離飛行の訓練を試みた。



② 動力滑空機による航法訓練

期間：令和6年4月～令和7年3月の週末、祭日および週日

参加人数：5名

概要：動力滑空機を使用して関東周辺での航法訓練を実施した。

A-II-4. エアロバティックフライトパイロットの育成

未実施

A-II-5. ウェーブフライトパイロットの育成

期間：令和6年4月～令和7年3月の週末、祭日および週日

参加人数：10名

概要：高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、ウェーブ（山岳波）を利用して高高度飛行の訓練を試みた。

A-II-6. 世界選手権（速度競技・曲技）、日本選手権等の競技会出場選手の養成

期間：令和6年4月～令和7年3月の週末および祭日

参加人数：2名

概要：海外選手権参加予定の2名のパイロットに対し、練習環境の充実と支援体制を整えた。

A-II-7. 飛行頻度バロメーターに準拠した年間飛行目標回数、飛行時間の達成

特定操縦技能審査、AFRの際に各自で振り返りを行った。

A-II-8. 希望者の要望に応じた目標設定とサポート

今年度未実施

A-III. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会

A-III-1. グライダーベーシックコース

① グライダーパイロットに必要な知識、技量、経験等（入会時オリエンテーション）

随時実施

② 初ソロに必要な技量向上のための集中訓練の実施（年1回）

今年度未実施

A-Ⅲ-2. グライダー操縦士資格取得 受験対策コース

① 自家用操縦士滑空機上級（HCG）受験準備（適時）

期間：令和6年4月～令和7年3月の週末、祭日および週日

参加人数：12名

概要：自家用操縦士滑空機上級資格の取得に向けたトレーニングを行った。

② 自家用操縦士滑空機上級（HCG）から動力（MGO）への限定変更受験準備（適時）

今年度未実施

③事業用・教育証明受験準備（適時）

今年度未実施

A-Ⅲ-3. 自家用操縦士滑空機上級 指定養成コース

①指定養成入所準備コース（年1～2回）

期間：令和7年1月18日、令和7年1月19日、令和7年1月26日

参加人数：1名

概要：指定航空従事者養成施設入所に向けた知識、技量の習得、確認を行った。

②指定養成課程（年1回）

期間：令和7年3月8日、3月9日、3月22日、3月23日、4月5日、4月6日、4月12日、4月13日の間の8日

参加人数：1名

概要：（公社）日本滑空協会 指定養成従事者施設 令和6年度第6期板倉コースが開催された。田中会員が合格し、自家用操縦士滑空機上級を取得した。



A-Ⅲ-4. クロスカントリー講習会

- ① グライダーによるクロスカントリーの講習会（座学およびフライト）（適時）
- ② モーターグライダーによる航法の講習会（座学およびフライト）（適時）
- ③ モーターグライダーによる不時着場の下見（適時）

今年度未実施

A-III-5. ウェーブフライト講習会

- ① ウェーブフライト講習会（座学）

令和5年度に実施した座学講習会をオンデマンドで視聴できるようにして、実技講習会参加希望者に対応した。

- ② ウェーブフライト講習会（フライト）

期間：令和6年11月～令和7年4月

参加人数：1名（参加希望2名）

概要：Dimonaでのウェーブ実技講習を実施した。1名の実技講習を実施した（令和6年11月23日）。



A-III-6. EMFT 講習会

- ① 異常姿勢からの回復、緊急操作の技量向上の為の講習会（年1回以上）

期間：令和6年11月23日、11月24日

参加人数：9名（内2名会員）

概要：（公社）日本滑空協会 滑空スポーツ講習会 実技講習会 EMFT 講習会を主管クラブとして開催した。

講師 櫻井理事、曳航スタッフ 酒井会員、事務局 岡村理事、丸山理事



② 上記の指導者の養成

今年度未実施

A-Ⅲ-7. 事業用・教育証明受験準備講習会

飛行を目的としたより高度な指導技術を有する指導者の養成を目的とした講習会(座学 年2回、実技 年1回)

今年度未実施

A-Ⅲ-8. 板倉安全会議

期間：令和6年12月21日

参加人数：30名

概要：1年間の板倉滑空場で発生したヒヤリハット、インシデントおよび過去のヒヤリハット事例を振り返る学びの場を、板倉サロンで開催した。

A-Ⅲ-9. 整備講習会

期間：令和6年4月～令和7年3月の週末、平日 延べ17コース65日

参加人数：55名(うち会員5名)

概要：延べ17コースの整備講習会を開催した。令和4年の航空整備士実地試験要領の改訂に伴い、令和5年度より二等航空運航整備士準備コースの日程を4日、二等航空運航整備士受験コースの日程を8日に拡大して対応している。56名が参加し、12名の整備士が誕生した(二等航空運航整備士滑空機上級8名、二等航空整備士滑空機上級2名、二等航空整備士滑空機動力2名)。

山木講師、畠本講師、二宮講師の3人体制で整備士資格取得希望者の増加に対応している。

①一般パイロット向け日常整備講習会 2回 14名

③FRP修理講習(FRPの基礎からゲルコート仕上げまで) 3回 12名

④二等航空運航整備士(上級滑空機)整備基本技術の習得 6回 16名

⑤二等航空整備士(上級滑空機)限定変更(二運整から二整)への受験準備 4回 10名

⑥二等航空整備士(動力)への限定変更の受験準備 2回 4名



A-Ⅲ-10. その他グライダースポーツに役立つ講習会の開催
未実施

A-Ⅳ. 競技会の開催

A-Ⅳ-1. 令和6年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」滑空競技会

期間：令和5年12月～令和6年11月

参加人数：50名

概要：板倉滑空場をベースとして活動するグライダーパイロットを対象として、オンラインコンテスト（OLC）を利用した月間競技会を開催した。各月、年間を通じて優秀なフライトに対して表彰を行った。（表彰者は付録参照）

令和7年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」も引き続きクラブがOLCコンペ寄付金を集めている。



A-Ⅳ-2. 日本選手権等開催などへの協力、滑空場の提供
今年度開催無し

A-Ⅳ-3. 世界選手権等の競技会出場会員へのサポート

D-7. 世界選手権参加支援事業にてサポートを実施した。

A-V. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会などの開催

A-V-1. AFR (Annual Flight Review) 年次フライトレビュー

期間：令和6年4月～令和7年3月の各週末、祭日

参加人数：板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員（滑空機47名、Dimona23名、飛行機5名）

概要：板倉滑空場にて機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により1年に一度義務付けられているAFRを、滑空機、動力滑空機、曳航機毎に実施した。

A-V-2. 特定操縦技能審査（滑空機、飛行機）

期間：令和6年4月～令和7年3月の各週末、祭日

参加人数：板倉滑空場で機長として飛行する操縦者（滑空機18名、飛行機3名受審）

概要：特定操縦技能審査を実施する体制を整えて、対象者に対して隔年で実施した。

A-V-3. 操縦インストラクター・曳航パイロットの任用・リフレッシュ訓練

期間：令和6年4月～令和7年3月

参加人数：グライダーインストラクター18名（内指定養成教官4名）、Husky 曳航パイロット8名、Dimona 曳航パイロット8名、モーターグライダーインストラクター9名

概要：特定操縦技能審査制度、AFR規定、インストラクター任用規定、曳航パイロット任用規定に従い実施した。曳航パイロット1名の新規任用訓練を行っている。

A-V-4. ファースト・エイド訓練

未実施

A-VI. グライダーに関する出版物等による航空思想の普及

A-VI-1. クラブホームページ、ブログ、SNSでの会員・外部向け情報発信

・2024年のホームページのページビューは65,000ページビューで前年度の66,000ページビューから1,000ページビューの減少となった。令和6年度は体験搭乗問合せ85件。

・SNSについては、Twitter, Facebookのフォロワー数は2025年3月時点で合計1,505名となり、2024年4月1,441名と比較して64名の増加となった。ブログと併せてクラブの活動状況の一般への認知向上、新入会員の入会へ繋がっている。Instagramのアカウントを田村会員を中心に運用した。221名のフォロワーとなった。

・ホームページのアクセスは令和5年度に減少したが、令和6年度は令和5年度並みとなり、体験搭乗問い合わせは、入会者数は増加となった。

A-VI-2. 広報誌（JSC ニュース）の制作、関連図書出版

・クラブニュース「JSC News」の発行は休刊した。

・恒久的なクラブ内のお知らせについてはホームページの会員限定ページで参照できるようにした。

・板倉町商工会からの依頼で（一社）東毛法人会の会報「とうもう法人」第153号に板倉滑空場が紹介された。



A-VI-3. グライダー気象情報の提供、利用促進

- ・ グライダー気象サービス BLIPMAP <http://blipmap.glider.jp/> の国内向けサービス（関東エリア、東北エリア）のサーバー運用、及び北海道、中部、九州エリアのサーバー運用支援を岡村理事が行っている。
- ・ グライダー気象サービス SkySight <https://skysight.io/> の日本語化サポート、普及促進を寺本会員が行っている。

A-VII. 学生団体合宿の受け入れ

A-VII-1. 学生団体の合宿、訓練の受け入れ、普及貢献

下記3団体から延べ10日、30名の訓練受入を行った。ソアリング訓練、航空機曳航訓練を実施し、グライダー普及に貢献した。

- ・ 慶應義塾体育會航空部

期間：令和6年4月～令和7年3月の各週末、祭日 計4日

参加人数：計8名

概要：モーターグライダーを利用した銀賞50kmの下見、三田ソアリングクラブ Duo Discus XT を利用したソアリング訓練を実施。

- ・ 東京大学運動会航空部

期間：令和6年5月3日、～5月6日 計4日

参加人数：計14名 16回

概要：単座機の持ち込み、航空機曳航訓練を実施。

・法政大学体育会航空部

期間：令和6年7月27日、7月28日 計2日

参加人数：計8名 16回

概要：航空機曳航訓練を実施。



B.公益目的事業 2 （公 2 航空情報提供事業）

B-I. 板倉フライトサービスの運用

板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、運航日毎にフライトサービス担当者を指名し、周辺を飛行する航空機からの飛行情報の要求に的確に対応できる体制を整えている。

*AIC 041/14 板倉フライトサービス：滑空場周辺半径 5NM 以内 5,000ft 以下。

B-II. 緊急時の場外離着陸場の提供、維持管理

B-II-1. 陸上自衛隊航空学校宇都宮分校訓練ヘリの場外離着陸場としての使用承諾

訓練ヘリコプターの予防着陸のため、緊急時の場外離着陸場として使用したいとの要請があり陸上自衛隊航空学校宇都宮校と年度毎の使用承諾書を締結している。陸上自衛隊ヘリコプターの不時着訓練を平日に随時実施している。

令和6年9月26日、12月10日に自衛隊ヘリコプターの着陸訓練の要請があり、承諾した。

B-II-2. ドクターヘリのランデブーポイントの提供

栃木県、群馬県ドクターヘリのランデブーポイントを提供している

C. クラブ組織、人材、機材・設備の整備

C-I. 定款及び規程に沿った公益事業の執行、事務作業の効率化

C-I-1. 会員総会、理事会の適正な開催（時期、議案）によるガバナンスの強化

定款に従った公益事業執行体制、定款および規定に沿った業務遂行により、組織の充実を図った。また、オンラインミーティング（Zoom）を活用して、総会、理事会、スタッフミーティング、各種講習会をオンラインとのハイブリッドで開催して参加促進に努めた。

・令和6年度総会

期間：令和6年6月10日

参加人数：会員数96名（2024/5/25現在）、返信 電磁的記録 57名、書面1名、当日web参加4名
合計62名

当日参加 サロン参加 14名 オンライン参加 17名

概要：

以下議案が賛成多数を持って決議された。

- 1) 令和5年度(75期、令和5年4月1日～令和6年3月31日) 事業報告
- 2) 令和5年度(75期、令和5年4月1日～令和6年3月31日) 決算報告

総会に引き続き、今年度の事業計画、予算についての概要説明と討議、2024年世界選手権参加支援事業についての説明が実施された。



・令和6年度理事会

12回の理事会を開催した。

・令和7年4月1日の公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の改正に伴う対応の為、令和7年度役員改選に向けて、外部理事、外部監事依頼の準備を行った。

C-I-2. 会計業務外部委託、ネットバンキング活用、会計ソフトの会計事務所との共通化による業務効率化

- ・経理業務の業務委託、会計事務所との共通の会計ソフト利用を継続した。
- ・国税（源泉所得税、航空機燃料税、消費税、法人税）のe-Taxでのダイレクト納付を継続した。

C-I-3. 板倉での支払いキャッシュレス化による業務効率化

- ・会員については口座引落、体験搭乗の一部についてはクレジットカード決済(Air ペイ)、QR コード決済(PayPay)での対応でキャッシュレスを実施した。
- ・法人名義クレジットカード(三井住友ビジネスパーチェシングカード)利用を継続した。クレジットカード支払が必要な外部のオンラインサービス費用(ホームページレンタルサーバー、ドメイン名、Zoom ライセンス等)を担当者が立替精算せずにクラブが直接継続的に支払い出来るようにした。

C-I-4. データ共有化(OneDrive、Google Drive)による事務作業効率化

- ・クラブ内ファイル共有サービスを、セキュリティ対応の観点から、従来の共有アカウント方式の OneDrive から、会員毎に個別のアクセス権設定を行う Google Drive へ変更した。Google Drive 利用のため、会員に Google アカウントの取得を依頼した。
- ・会員への支払、会員からの引落データを Google Drive で共有し、会員自身での確認を可能にしている。
- ・テックスーパ・ジャパンとの非営利法人を対象としたソフトウェア寄贈プログラムの契約により、Microsoft 社製品、Zoom 社製品、Norton 社製品、Adobe 社製品の優待利用、Google 社の非営利団体向けプログラム”Google Workspace for Nonprofits”の無償利用が可能になり、資料共有、写真共有、講習会動画共有など、クラブ内外の活動に活用している。

C-II. 人材**C-II-1. 運航スタッフの育成**

運航を支える運航リーダー、インストラクター、曳航パイロット、ピスト担当、EMFT、クロスカントリー、モーターグライダー、指定養成施設のインストラクターの育成、充実。特にインストラクターの高齢化に備えて若手の育成に注力する。

以下の運航スタッフの体制を維持した。

- ・グライダーインストラクター18名(丸山チーフインストラクター、稲垣会員、茂木会員、宇賀神会員、岡村会員、櫻井会員、三ツ目会員、吉岡会員、本田会員、宗会員、小林会員、須長会員、市川会員、熊谷会員、宮原会員、津久井会員、長谷川会員、石川会員)。グライダーチーフインストラクターの複数人体制化を検討した。
- ・指定航空従事者養成施設インストラクター5名(稲垣訓練所長、丸山会員、岡村会員、津久井会員、鈴木重輝会員)。指定養成インストラクターの増員を検討した。
- ・モーターグライダーインストラクター8名(茂木チーフインストラクター、櫻井チーフインストラクター、岡村会員、丸山会員、小林会員、須長会員、熊谷会員、市川会員)
- ・ハスキー曳航パイロット8名(岡村タグマスター、稲積会員、初野会員、田上会員、酒井会員、熊谷会員、市川会員、萩原会員)。末松会員の曳航パイロットトレーニングを開始した。
- ・Dimona 曳航パイロット10名(岡村タグマスター、茂木会員、稲積会員、田上会員、熊谷会員、市川会員、篠崎会員、櫻井会員、須長会員、小林会員)
- ・ピスト担当者8名(末松会員、畠本会員、山本会員、渡邊泰啓会員、嶋田会員、田村会員、鈴木重輝会員、村井会員)。新たに高田会員が担当者に任用された。

C-II-2. 整備スタッフの育成

機体整備内製化を支える整備士、耐空検査員の育成、充実。車両整備スタッフの育成、充実。

- ・クラブ整備スタッフ6名の体制を維持した。(山木会員、宇賀神会員、二宮会員、畠本会員、藤元会員、岩崎会員)
- ・耐空検査員6名の体制を維持した(吉田功検査員、山本検査員、初野検査員、山木検査員、岡村検査員、藤元検査員)
- ・車両整備スタッフ1名の体制を維持した(酒井会員)

C-II-3. 特定操縦技能審査員の育成

- ・特定操縦技能審査員 飛行機3名(鈴木会員、櫻井会員、植田会員)、滑空機16名(丸山会員、小林会員、宗会員、稲垣会員、津久井会員、三ツ目会員、鈴木会員、茂木会員、岡村会員、櫻井会員、宮原会員、宇賀神会員、熊谷会員、須長会員、植田会員、市川会員)の体制を維持した。
- ・飛行機の特定操縦技能審査員の増員、審査員資格取得を検討した。
- ・植田会員の活動再開に伴い、飛行機の特定操縦技能審査員を依頼した。

C-II-4. 滑空記章試験員、公式立会人の育成、申請

- ・日本滑空記章試験員8名(宇賀神会員、岡村会員、熊谷会員、宗会員、櫻井会員、丸山会員、宮原会員、津久井会員)、国際滑空記章公式立会人6名(市川会員、宇賀神会員、岡村会員、櫻井会員、熊谷会員、丸山会員)での滑空記章取得の体制を維持した。

C-II-5. 管理業務スタッフの育成

理事、板倉事務所長、Gliding Japan クラブニュース担当、ホームページ/SNS 担当、ML 管理者等の業務スタッフ要員の育成

- ・SNS 担当7名の体制を維持した(寺本会員、萩原会員、酒井会員、初野会員、田上会員、丸山会員、田村会員)

C-II-6. 会員ボランティア促進

以下の活動について会員の積極的な対応を促進した。

- ・活動日の藤岡駅ピックアップ
- ・ライセンス所有会員のフライトサービス対応(9名)
- ・年末大掃除(32名参加)、滑空場整備作業、草刈への参加
- ・近隣との交流、認知度拡大を目的としたイベント出展のサポート

C-II-7. 若年層支援

クラブの持続的な継続を目的として、若年会員の拡大に努めるため、ジュニア/ユース会員制度、ラインサポーター制度を活用して若年層支援および若年会員の拡大を行った。また、クロスカントリー飛行等高度な飛行への挑戦などを目指している若者を対象としたユースキャンプ開催の受入を行う。

- ・ユース会員15名、ジュニア会員10名と若年層が拡大した。ユース・ジュニア世代はライフイベント(就職・転勤・結婚出産)に伴いクラブ継続が一時的に難しくなるケースもあり、賛助会員制度を活用した一時休会・再復帰を案内している。

・ラインサポーター制度：令和6年度参加者41名

主に大学航空部の部員の方を対象に、運航に参加することで、クラブの雰囲気を知り、卒業後のグライダースポーツ継続を目指して若年層が入会しやすくなる施策を実施している。本制度の経験をへて新規入会するジュニア・ユース会員が毎年若干名存在する。令和6年度のラインサポーター制度を経験した入会者は4名。

令和6年度は令和5年度参加21名と比べて参加者が大幅に増えたこともあり、参加については原則1名/日とした。また、所属クラブの監督ないしは部長先生の承認を頂いていることを前提としている。



・ユースキャンプ開催

今年度未実施

C-II-8. 世界選手権・日本選手権への選手・チーム・クルー・スタッフとしての参加・協力

・アクロ競技世界選手権

酒井会員がドイツで開催された第14回グライダーアクロ世界選手権アドバンスクラスに参加した。23位/34機の成績をおさめた。

C-III. 機材・施設

C-III-1. 飛行機材の充実

①次期曳航機の導入

曳航機整備については外注整備、なおかつ経年劣化に伴う整備費増大が続いており、費用軽減のためにも新曳航機への更新が喫緊の課題である。

2019年から「次期曳航機のための募集特定寄付」事業を3年計画で開始したが、目標額20,000,000円の達成が目標期間内に困難なため、2022年に募集期間を2024年10月まで2年延長して継続してきた。

2022年後半から現行曳航機のエンジンが不調となり、エンジン交換の為の別途の特定寄付を募集し、2023年7月にエンジン交換を実施した。

エンジン交換に伴い、次期曳航機導入までの時間的余裕ができたこと、および物価高騰により目標金額を増額する必要が生じたことから、本特定寄付事業の期間を2027年まで延長し、目標金額も30,000,000円と変更することを決定して、寄付活動を継続している。

令和6年度実績1,134,000円（19名）。2019年10月の開始から、合計14,398,000円、（延べ150名）

②練習機

現行の3機体制（Twin-2、Twin-3、Astir）を維持した。

③スタンダード機

継続検討。

オーナー会での飛行を希望する会員については、1名の会員が新たにオーナー会に所属してフライトを開始した。

④高度な飛行技術の伝承に必要な高性能複座機

オーナー機レンタル制度を継続検討。

⑤Dimona

- ・単座機曳航、グライダー操縦訓練、不時着場下見、技能証明限定変更訓練等に活用した。

- ・2019年の運航復帰以降、年間120時間～140時間の運用を継続してきたが、令和6年度は練習生減少から100時間に減少した。Rotaxエンジンも納期1年、870万円と価格が上昇しており、TBO 2,000時間を踏まえて2024年度の中期計画へ更新計画を反映、令和6年度予算から積立を予算化したが、令和7年度に1,000,000円を特定資産の「機材更新積立金」として積み立てることとした。

⑥現行曳航機のMOGAS対応検討

曳航機維持費の削減を目的として、JA4171の燃料を、現行のAVGASからMOGASに変更する検討を開始した。2025年度中の変更を目指している。

・機体整備

クラブのグライダー3機、モーターグライダー1機の整備はクラブ整備スタッフにより内製化が継続できている。内製化により、整備による休止期間の短縮、整備費用軽減に繋がっている。

C-Ⅲ-2. 運航機材の維持、更新

①②草刈り機の維持・整備。

滑走路用草刈り機については、エアコン付きトラクター、ディスクモア草刈り機を2021年度に中古導入した。

土手のり面用草刈り機（バロネス）については、軽量の運転者の方向転換操作の際に草刈り機本体の転倒・脱輪の可能性があるので、安全性を考えてクローラー型バロネス HM110 を2023年5月に中古導入した。

整備スタッフでの整備を継続して維持している。

安全に草刈りをするため、猛暑時間を避けた作業時間の設定、自動停止スイッチの増設、4台の草刈り機全部を対象に特定農機具傷害共済保険の加入を行い、安全に作業を行うための環境を整えて行っている。



③ピストカー、燃料車の老朽化に伴う更新計画検討

今年度未実施

④リトリブカー等車両の整備維持

酒井会員が車両整備担当を引き続き担当した。

- ・ピストカー、リトリブカーの暗電流対策として、平日の充電の仕組みを装備した。
- ・ピストカーのメインキー抜き忘れ防止の為、無線系等のマスターキーを設置した。

⑤無線検査の対応

クラブ機材の無線検査を千葉理事が対応した。

C-Ⅲ-3. 滑走路の維持・整備

①会員ボランティアによる草刈りの励行

2024年度草刈隊は8名（二宮リーダー、稲垣会員、宇賀神会員、岡村会員、深沢会員、山木会員、末松会員、畠本会員）+地元ボランティア築井指導員を中心に、4月から11月まで、平日に週2回ペースで実施した。

延べクラブ員42回、築井氏30回の草刈を実施した。ディスクモア草刈機により、植生が変わり、芝が増え、雑草が減ることになって良好な路面を維持できている。トラクターの性能向上により、草刈の時間が短縮されている。



草刈り隊は滑走路だけでなく、駐機場、誘導路、退避エリア、土手などを含む広いエリアを手分けしながら草刈りを行うだけでなく、年代物の草刈り機たちのメンテナンスも実施した。

2025年2月に滑走路外の河川敷草刈り作業中にクローラー型草刈り機排気管から引火して滑走路での火災が発生した。幸い被害は無かった。乾燥期間、強風時の草刈り作業時の注意点対策を検討した。

②滑走路面、土手側運搬路、坂路の整地

- ・土手側運搬路の砂利入れを大掃除の際に行った。

③接地帯標識（布ハン）、吹き流しの維持・整備

- ・接地帯標識（布ハン）の老朽化に伴い、破損の進んだ接地帯標識を交換した。
- ・大掃除の際にペンキを塗り直して接地帯標識の視認性を維持した。

④河川敷地占用許可の維持、更新

令和5年に河川敷地占用許可準則に基づく5年ごとの河川敷地占用許可期間の更新を頂いて、現在の占用許可期間は令和6年4月1日から令和11年3月31日までの5年間となっている。土手坂路の看板設置のため、土手側、川側両面の坂路の占用許可も頂いている。

C-Ⅲ-4. 施設の維持・整備

- ①板倉事務室の整理・整頓。床、天井の維持（将来の補修計画検討）。
- ②サロン、浴室、キッチン、トイレの維持・整備。
- ③休憩室（2F）、女子部屋の維持・整備。
- ④整備場の整理・整頓、工具の拡充。整備小屋の補修。
- ⑤格納庫、補修必要箇所の調査。
- ⑥ライブカメラを用いた滑空場運航情報提供
・ウエザーニュース社のライブカメラを格納庫上部に設置し、滑走路の状況を常に視認できる体制をとり、来訪者の利便性を高めている。（ウエザーニュース社ホームページと、クラブホームページから閲覧可能）
- ⑦PC、複合機、無線 LAN の維持、更新。複合機は、リース切れを利用していたが、経年劣化に伴い更新した。
- ⑧格納庫、作業小屋間の駐車スペースの砂利入れを、大掃除の際に会員ボランティアの協力の下実施した。
- ⑨浄化槽蓋マンホール改修工事を実施
- ⑩格納庫屋根からの雨水管と配水管の修理を実施（教室建屋床下の土砂が9月の大雨で流出）
- ⑪消防設備等の点検の対応、有資格者の維持 千葉理事が消防設備点検に対応した。
- ⑫格納庫屋根最上部トタン屋根の修理を実施

C-IV. 組織運営

C-IV-1. 安全活動の強化

①ヒヤリハットレポート、インシデントレポートの促進、活用、共有化

ヒヤリハットレポートの提出促進、活用により経験を共有し、航空事故防止を図った。令和6年度は10件のヒヤリハットレポート、4件のインシデントレポートが提出された。

令和6年度からヒヤリハットレポートの取り纏めを岡村理事が担当した。鈴木重輝会員がアドバイザーを担当する。

ヒヤリハットレポートについては、PIC（練習生の場合は担当教官）が発生した事象を簡潔にレポートし共有することを目的とする。原因の究明、対策等に踏み込む必要はなく、気軽にレポートを出せる雰囲気を醸成する。そのうえで組織的に対策が必要なものについてはスタッフミーティングで議論する。

②スタッフミーティングの定期開催（四半期毎）

2020年8月のインシデントを踏まえて、四半期毎に定例スタッフミーティングを開催している。会員の状況、スタッフ間で共有、検討したい内容について討議を行った。

06/15開催 参加20名、09/21開催 参加19名、12/14開催 参加19名、03/08開催 参加12名
延べで29名のスタッフの2/3が参加している。

③飛行終了後のデブリーフィングの定着と安全情報の共有

・デブリーフィングでの気づき・ヒヤリハットの共有、会員メーリングリストでの運航報告、必要に応じてスタッフメーリングリストでの対策検討、次回運航日の朝ブリーフィングでの情報共有、必要に応じてチェックアウトシステム、各種ガイドラインの更新、作成、オペレーションハンドブックの改訂による仕組み化、といった一連の安全行動システムのサイクルを回すようにしている。

実践 → 振り返り → 会員ML連絡報告 → 朝ブリーフィング → 実践 → 振り返り → 会員ML連絡報告 → 朝ブリーフィング

スタッフML (安全文化)

スタッフミーティング (0月、5月、12月、3月) 情報共有

オペレーションハンドブック(標準手順)(改訂完了)
シフト/シフト表
チェックアウト規定/ガイドライン
オーナー/会組当インストラクター制度
Google Drive/クラウドカレンダー(クラウド利用者)

特定調査(AFR/90日)3回
安全文化

- ・2020 年 8 月のインシデントを受けて、進捗表、シラバスの改訂を行った。パイロットに判断を促す様々な課目を設定して行うことで、想定外に発生することを想定・対応できるようなトレーニングを心がけている。
- ・クラブグライダーでの単独飛行を行うにあたり、機体別（TwinII、TwinIII、Astir）のチェックアウトフォームを作成した。クラブ機での単独飛行前にインストラクターが確認を行った上で単独飛行を許可する形とした。
- ・オーナー会個人機については担当インストラクターをアサインして、担当インストラクターがチェックアウト、チェックアウト後の見守り、相談を担当し、必要に応じてスタッフミーティングで検討を行っている。
- ・ライセンスの方のクラブ複座機のライセンス機長運航（インストラクターの監視下でない飛行）について、万が一事故・インシデント発生時はクラブ運航への影響が大きいと、過去の事例も踏まえ注意喚起を行っている。
- ・以下の規程の改定を行った。
 - MAN-ADM05 ビジターガイド
 - FORM07 飛行前確認書
 - FORM06 誓約書（ビジターB・団体・講習会）
 - REG-OPR22 運航支援業務（ラインサポーター）規程
 - MAN-OPR14 板倉エアポートガイド
 - FORM05 誓約書・登録(ビジターA)
 - REG-ACC 令和6年度ビジター料金表
 - REG-ADM16 費用・出張旅費・謝礼等の基準
 - MAN-ADM02 入会手続ガイド
 - REG-ADM08 会員の経費負担に関する規程
- ・Dimona のクラス別チェックアウト、Dimona 教育の標準化について、見直しを開始した。
- ・自家用事業用課目実施要領の失速科目の回復操作手順を改訂した。

・オンライン・パイロットカルテをスタッフ限定で共有して、教育、フライトでの気づきを共有するようにしている。パイロットカルテの内容はスタッフミーティングで定期的に見直している。

⑥会員間コミュニケーションの促進（懇親会等開催）

安全の基盤となる会員間のコミュニケーションを促進するため、会員参加のパーティを開催した。

- ・ 2024/05/04 BBQ パーティ 参加 32 名(会員 27 名、学生 5 名)
- ・ 2024/12/21 大掃除後忘年会 参加 30 名



C-IV-2. 運航回数増への取り組み

経営基盤の強化、平日に活動できる会員の増加に対応するため下記を実施。

- ① 隔週金曜に実施しているモーターグライダーの平日運用日の拡大。
- ② Dimona 搭乗料パックキャンペーン、曳航パックキャンペーン等の割引制度の活用。
令和6年度未実施

③ Dimona 運航に合わせた単座グライダーの金曜運航

④ ハイシーズン限定の平日運航（金、月限定）

・モーターグライダーの金曜運航、Dimona 運航に合わせた単座グライダーの金曜運航時のスタッフの確保
令和6年度は平日 Dimona 運航を 11 日（計画 29 日）行うことで、Dimona 飛行時間は曳航以外で 73 時間となり、会員の訓練機会の要望に対応することができた。曳航収入、練習収入を拡大することが出来た。

平日対応可能な Dimona インストラクター、Dimona 曳航パイロット 5 名（小林会員、市川会員、茂木会員、須長会員、岡村会員）を維持した。

- ・単座機の Dimona 曳航は猛暑期（7 月～9 月）以外で実施した。
- ・近隣ホテルとの法人契約

カンデオホテルズ、ルートインホテルズ、館林ヒルズホテルとの法人契約を継続して、連続でのクラブ活動参加、遠方からの講習会参加者の利便性を高めている。

C-IV-3. 滑空記章取得促進

①今年度の滑空記章取得実績

日本滑空記章 A 章 2 名、B 章 2 名、C 章 1 名、銅賞 1 名を達成した。



C-IV-4. 板倉管理人の業務引き継ぎ

- ①2021年6月から板倉常駐ではなく必要時業務支援に変更
 - ②業務内容：機材・施設整備、燃料手配、飲料補充、経理伝票発送業務等を実施
 - ③将来の引き継ぎ検討要
- 車両整備業務については2024年1月より酒井会員に担当を引き継いだ。

C-IV-5. ガバナンス充実に向けた取組

②ハラスメントに対する取組

・5月に会員の方から「ハラスメント相談窓口」にインストラクターの指導に関して相談があった。ハラスメント相談窓口担当が話を伺い、当該インストラクターとも話をし、発言がデブリーフィングの大勢の居る場で行われるなど指導される側の気持ちへの配慮が足りなかったことを認め反省してもらった。この問題はインストラクター全体が注意すべき問題として捉え、6月15日の定期スタッフミーティングでも議論をした。

今後も継続して「ハラスメント相談窓口担当」が中心となり、スタッフへのハラスメント教育、啓発を行っていくことにした。

インストラクターに限らずピスト周りの会話において明らかに女性蔑視と受け取れる会話があったとの訴えもあった。クラブ内への注意喚起と啓蒙を行っていく。

会員一人ひとりが、互いに尊重し合い、協力し合うことが、健全なクラブ環境を築く第一歩である。皆様のご協力とご理解が、より良いクラブを作る鍵となる。共にハラスメントのないクラブを目指して、一歩ずつ進んでいきたい。

・ハラスメント防止オンライン研修の受講をスタッフ、会員に案内した。スタッフについては受講必須とした。今後も年1回受講するとした。

・令和5年度に設置したハラスメント相談窓口の担当を、稲垣理事長、櫻井理事に加えて、末松会員にも窓口就任頂いた。

- ・ハラスメント相談については、顧問弁護士に相談した上で対応を行った。
- ・メーリングリストの利用について、提案の発信の心がけるように訴えた。

D.その他クラブの目的に必要な事業

D-1. 騒音対策

①Dimona (JA2845) の活用

- ・エンジン騒音の低い動力滑空機 Dimona を単座機の曳航に活用した。曳航の9%を Dimona で実施した。

②曳航機飛行ルートの研究（毎回同じルートを飛ばない）

- ・騒音対策のため滑空場周辺に5ヶ所（令和4年7月に1ヶ所追加）の飛行規制空域を設定し、それらの上空を避けるために見直した曳航経路の利用を継続した。
- ・季候の良い時期の南風発航（滑走路15利用時）時は、15 ライトターンデパーチャーパターン下の騒音防止区域を避けたため、可能な単座機、Dimona はレフトターンデパーチャーを使用して飛行を行った（猛暑期は考慮不要）

③滑走路の使用法検討（発航位置を可能な限り下げる等）

- ・北風発航時の滑走路北側エリアの騒音を低減させるために、滑走路33の離陸帯を平坦化して発航位置を150m南側へ移動し、北風発航時の曳航上昇高度を高くした。

④地域との交流促進

- ・近隣住民対象の搭乗会を実施し、近隣の方との交流に努めた
- ・騒音クレームには板倉町役場とも連携して真摯に対応している。

D-2. 地域との交流

①渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会「スカイスports協議会」参加

渡良瀬遊水地利用者相互並びに河川管理者との一層の理解と連携を強化し、情報を共有するために渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会が設置されている。年1回開催される渡良瀬遊水地スポーツ利用者等連絡協議会は書面開催となった。

日本グライダークラブはスカイダイビング、ウルトラライトプレーン、熱気球、モータパラグライダー、グライダーで構成されている「スカイスports協議会」で情報交換をしている。毎月オンラインで開催され、稲垣理事長が参加した。渡良瀬遊水地で行われるスカイスportsイベント情報が共有され、他団体のイベントを考慮した運航を実施できた。

②近隣の市町村、団体主催のイベントへの参画（『渡良瀬遊水地フェスティバル』『渡良瀬遊水地クリーン作戦』『板倉商工祭』等）

- ・第40回板倉まつり 機体展示参加

期間：令和6年8月3日

参加人数：会員ボランティア12名

概要：板倉町役場駐車場で開催。機体展示で参加した。のべ100名前後の親子連れの方にコックピット体験搭乗をしていただき、町の方との交流を深めた。



・渡良瀬遊水地フェスティバル 2024 機体展示参加

期間：令和6年10月6日

参加人数：会員ボランティア18名

概要：渡良瀬遊水地子供広場ゾーン及び谷中湖北ブロックで開催された。機体展示、紙飛行機教室、展示飛行を行って近隣住民との交流を深めた。



・いたくら商工祭 機体展示参加

期間：令和6年11月23日

参加人数：会員ボランティア9名

概要：板倉町中央公園グラウンドにて開催された。機体展示を行って町の方との交流を深めた。



- ・クラブ出展イベント対応のボランティア会員については交通費を支給した。

③板倉町ふるさと納税（JSC 利用券）の促進

- ・ふるさと納税の返礼品としてグライダー体験飛行を提供した。

令和6年度 ふるさと納税での体験飛行実施者：7名

- ・クラブ員有志の板倉町へふるさと納税の実施

「日本グライダークラブ利用券」を返礼品として登録することで、クラブ員の納税を促進した。

令和6年度 ふるさと納税 日本グライダークラブ利用券実績：58件（29名）

④板倉町役場、板倉商工会への報告

- ・クラブの状況報告と飛行活動への理解を深めるため、稲垣理事長、小林理事が10月18日に板倉町役場を訪問し、栗原町長、鈴木企画調整係長へ前年度の活動報告、今年度の事業計画の説明を実施した。板倉町ホームページで紹介された。



<https://www.town.itakura.gunma.jp/cont/s001000/d001010/d000010/d000130/20241018145229.html>

- ・板倉町近隣住民向け四半期毎飛行計画チラシ配布のための板倉町役場への運航計画提出

板倉町からの近隣住民の方向けに四半期毎（4月、7月、10月、1月配布）にグライダー飛行計画案内のチラシ

を作成・配布頂いている。クラブからは板倉町役場企画財政課企画調整係に前月15日までに飛行計画を提出して確認頂いている。このような情報交換を通じて相互の理解を深めている。

⑤除川神社 春祭、秋祭への協力

除川神社では、春祭（4月第2日曜日）及び秋祭（11月第4日曜日）が行われている。今年は4月9日に春祭が行われ、稲垣理事長が参加し寄進を行った。

D-3. 公益社団法人日本滑空協会（JSA）、国内グライダークラブとの連携

①JSA主催の講習会等への協力

- ・講師協力 日本滑空協会 滑空スポーツ講習会2024 実技講習会事前オンライン学科講習 櫻井理事
6/16、6/29
- ・講師協力 日本滑空協会 滑空スポーツ講習会2024 実技講習会 EMFT 講習会 櫻井理事
11/8-11/10 阿蘇場外離着陸場、11/16-11/17 関宿滑空場、11/23-11/24 板倉滑空場
- ・開催地主管協力 日本滑空協会 滑空スポーツ講習会2024 実技講習会 EMFT 講習会 11/23-11/24

②JSA 機関誌「Gliding Japan」への寄稿

嶋田会員がクラブニュース投稿を行った。

③JSA への入会促進

- ・EMFT 講習会開催案内、航空安全講習会への参加促進（特定操縦技能審査を受けるパイロットについては参加を強く推奨）、滑空記章申請、指定養成入所時のJSA への入会を案内した。
- 多くの日本グライダークラブ会員の日本滑空協会入会につながった。

④JSA 安全委員会との情報共有

- ・JSA 安全委員会が四半期ごとに開催された（4/23、7/31、10/21、1/31）。16 クラブが参加、各クラブからのヒヤリハット、安全への取組の紹介があった。日本グライダークラブからはクラブで発生したヒヤリハットを紹介した。丸山理事が参加した。
- ・JSA 安全委員会からのアナウンスを適時クラブ内に共有して危険防止に役立てている。

⑤航空局等への陳情、調整

- ・自家用操縦士滑空機動力実地試験時の試験官の練習飛行の費用負担について、日本滑空協会に依頼をした。

⑥JSA グライダークラブ委員会への参加（旧 全国グライダークラブミーティング）

従来は全国グライダークラブミーティングの名称で活動していた取り組みが、令和6年度から日本滑空協会の委員会として活動することになった。

全国から22クラブが参加。各クラブの取り組み、課題共有を行っている。10月の対面開催ではウインチ曳航関連についてのディスカッションが行われた。

- ・05/29 2024年第1回オンライン開催 丸山理事参加
- ・09/05 2024年第2回オンライン開催 不参加

- ・ 10/26～10/27 2024 年第 3 回対面開催(霧ヶ峰) 吉岡会員参加
- ・ 02/18 2025 年第 1 回オンライン開催 吉岡会員、丸山理事参加

⑦JSA インストラクター委員会への参加

2024 年 12 月から JSA インストラクター委員会が発足し、吉岡会員、丸山理事が参加している。

- ・ 12/10 2024 年度第 1 回オンライン開催 丸山理事、吉岡会員参加
- ・ 01/21 2024 年度第 2 回オンライン開催 丸山理事、吉岡会員参加
- ・ 03/06 2024 年度第 3 回オンライン開催 丸山理事参加

⑧JSA 事業への協力 LSA によるグライダー曳航試験

- ・ 板倉滑空場での LSA の整備、整備終了後の試運転、地上滑走、ジャンプ、単機による場周飛行までを板倉で実施することへの協力要請に対して要請通り協力することとした。
- ・ 試験の実施主体は日本滑空協会、試験飛行の申請者はエクスペリメンタル飛行機連盟となる。

⑨他クラブとの会員相互受け入れ等の検討、連携

- ・ (公財) 日本学生航空連盟への曳航機派遣協力

(公財) 日本学生航空連盟からの依頼により、妻沼滑空場での航空機曳航トレーニング、教育証明実地試験対応のため、曳航機を派遣して曳航を行った (7/25、7/26、9/17、12/16、12/23)。

2024 年までのビジター曳航料の設定は、1 曳航あたりのコストは曳航機整備費用の高止まりに伴い赤字のため、曳航機派遣は機会を限定して対応することへの理解をお願いした。2025 年からはビジター曳航料を値上げして対応することになっている。

- ・ (公財) 日本学生航空連盟 クロスカントリー研修会等の不時着場使用協力

(公財) 日本学生航空連盟からの依頼により、妻沼滑空場で開催されるクロスカントリー研修会及び単座機での記録会での板倉滑空場のアウトランディング場候補地としての利用依頼に協力した (3/18～3/21)。

- ・ 羽生滑空場との意見交換

会員が操縦するグライダーが羽生滑空場に着陸した件について、羽生ソアリングクラブと意見交換会を行った。

(10 月) 羽生滑空場近くで低空になるまで羽生フライトサービスへ無線連絡をしなかったこと、低空での旋回を継続したことが問題点として整理された。

再発防止策：板倉滑空場と羽生滑空場は距離が約 8km と近く双方のフライトサービスの情報提供範囲が重なっており無線連絡のルールが曖昧であった。「板倉から羽生方面へ 3000ft 以下で飛行する場合、両滑空場の中間の 4km 地点で羽生フライトサービスへ連絡すること」を協議し、板倉 NOTAM2024-10-25 としてクラブ内にアナウンスした。



・河川占用料（流水占用料）の減免についての情報提供

大利根飛行場を管理する日本モーターグライダークラブより、日本グライダークラブでの河川占用料減免の過去の取組についての問い合わせを頂いた。県知事への陳情実施など、当時の書類を探し情報提供した。

・東工大グライダー部 OB 会 Twin II 再生プロジェクト

東工大グライダー部 OB 会で古い Twin II を再生するプロジェクトが令和6年12月より板倉滑空場北側小屋で行われている。小屋の利用で協力している。

⑩無人ヘリコプターデモ飛行を含めた展示会開催のための滑空場利用について

日本滑空協会経由でヤマハ発動機から無人ヘリコプターデモ飛行を含めた展示会開催のための滑空場利用の問い合わせがあり、検討を行った。河川事務所に確認したところ、河川敷占用の目的外利用になるとの見解で利用許可が得られなかったことから対応を断念した。

⑪ヘリコプター使用事業者からヘリコプター訓練場としての滑空場利用問い合わせ

河川敷地占用の目的外利用になる可能性が高いため、見送らせていただいた。

D-4. 会員の記録飛行等への挑戦に対する支援

期間：令和6年4月～令和7年3月

概要：高性能滑空機を使用し、ウェーブ（山岳波）による日本アルプス方面、東北地方から北海道に至る長距離記録飛行、高高度飛行の研究、空域の開拓を市川会員を中心として行った。

①ウェーブをはじめとする好条件時に会員が記録飛行等に挑戦する場合、原則として本人が準備を行うこととするが、クラブとして可能な範囲で支援を行う。

②クラブ内での成果、知見の共有が出来ることが望ましい。

D-5. 再生可能エネルギー（太陽光発電システム）の活用、財政基盤の強化

・太陽光発電の売電収入

10kWh 以上の発電については、発電開始から20年間現在の買い取り価格が維持されることから、2033年度までは現在の固定価格での買い取りで予算化を行っている。

D-6. 世界選手権等参加支援寄付事業

- ・令和6年度世界選手権等参加支援事業

世界大会への選手・チーム・クルーとしての積極的な参加・協力のため、下記事業を実施した。

事業1. 2024年第14回アドバンスドグライダーアクロ世界選手権参加支援事業に関わる寄付金の募集（当クラブ会員の酒井会員が参加）

期間：令和6年6月15日～令和6年8月31日

事業 42名 871,000円

11/9に板倉滑空場サロンとオンラインのハイブリッドで報告会を開催、会場参加8名、オンライン5名の計13名の方に参加いただいた。開催報告をホームページに掲載した。



D-7. 保険契約の維持更新

①航空機保険

2024年度からのグライダー保険値上げを踏まえた予算化を行った。2025年度以降の保険契約額の検討を行った。

②施設所有管理者賠償責任保険

③事業活動総合保険

④自動車保険

⑤特定農機具傷害共済

2023年10月より草刈り機4台に対して契約している。

D-8. 基地連絡会への参加

基地連絡会への出席を通じ、各基地との情報交換、交流に努めた。

従来鈴木重輝会員が対応してきたが、萩原理事に引き継ぎを行っている。

①関東西部地区飛行連絡会（航空自衛隊・入間基地）への参加

今年度開催無し

②北関東航空連絡会（陸上自衛隊・北宇都宮駐屯地）への参加

今年度開催無し

③下総航空基地周辺飛行安全会同（海上自衛隊・下総基地）への参加

期間：令和6年12月5日

参加人数：2名

概要：萩原理事、鈴木会員が参加して、下総基地周辺の飛行情報の収集、会員への周知に努めた。

④横田基地 航空機空中衝突防止対策会議への参加

今年度開催無し

⑤北宇都宮駐屯地 開設51周年記念行事

期間：令和6年6月1日

参加人数：2名

概要：萩原理事、鈴木会員が参加して、宇都宮飛行場周辺の飛行情報の収集、自衛隊への周知に努めた。



付録. 活動の記録

付-1. 発航回数、運航日

- ・ 運航計画日 計 142 日
- ・ 内 Dimona 運航計画日 計 29 日
- ・ 運航日 計 95 日
- ・ 内 Dimona 集中運航日 平日 11 日
- ・ 曳航出張日 計 5 日
- ・ 総発航 回数 1334 回
- ・ 曳航回数 1195 回 (JA4171 1088 回、JA2845 107 回)

No.	登録記号	総時間	
		飛行時間	回数
1	JA2412	153:15	395
2	JA2442	130:30	266
3	JA2444	96:55	71
4	JA2845	94:50	280
5	JA4171	180:18	1109
7	JA08AP	0:00	0
8	JA11AA	19:01	8
9	JA21TD	54:26	23
10	JA2254	16:26	11
11	JA22AT	53:05	17
12	JA22KF	34:50	20
13	JA22KJ	0:00	0
14	JA22MX	71:39	64
15	JA2310	0:00	0
17	JA2395	25:40	9
18	JA2408	0:00	0
19	JA2411	109:18	53
22	JA2468	65:55	31
23	JA2476	0:00	0
24	JA2485	74:07	24
25	JA24UK	44:44	20
26	JA2542	52:03	32
27	JA40DG	81:36	20
28	JA58HD	85:37	39
29	JA767Y	38:28	21

30	JA800A	36:43	16
合計		1519:26	2529
曳航(JA4171,JA2845)		194:08	1195
曳航を除く		1325:18	1334
自力発航による飛行時間		112:15	33

付-2. 総会員数：

3月末正会員 103名（男性 97名、女性 6名）、賛助会員 48名

令和6年度入会 18名（内ユース会員 2名、ジュニア会員 8名、短期会員（ジュニア）1名）、賛助会員からの復帰 0名）

3月末 正会員退会 6名、賛助会員移行 1名、賛助会員退会 7名

付-3. 記録・表彰

日本記録 グライダーDO級（オープンクラス）：女性 500km 往復コース速度 137.04km/h 櫻井玲子 ヴェロニカ飛行場（ナミビア） グラスフリューゲル式 304MS 型 飛行日 2024/12/24 認定日 2025/2/18

付-4. 操縦士資格取得

自家用操縦士 滑空機上級 田中会員 4月12日

付-5. 整備士資格取得

今年度該当無し

付-6. 滑空記章の取得

A章 2名

B章 2名

C章 1名

銅章 1名

銀賞 5時間 該当無し

銀賞獲得 1,000m 該当無し

付-7. ヒヤリハット

No.24-07	2024/7/28	飛行中の無線機トラブル(バッテリー充電不良)
No.24-08	2024/9/7	Turbo 機で羽生滑空場にアウトランディング
No.24-09	2024/3/10	サステナーエンジンからの燃料リーク
No.24-10	2024/11/9	Dimona 朝の点検時エンジンルームに手袋を置き忘れた件
No.24-11	2024/11/15	Dimona 飛行前点検エンジンルーム内の置忘れ手袋の見逃し
No.24-12	2024/11/17	進入機と発航機の輻輳
No.24-13	2024/10/14	SOLO 2350D ターボエンジン プロペラ軸支持部の内部ボルトの破断発見

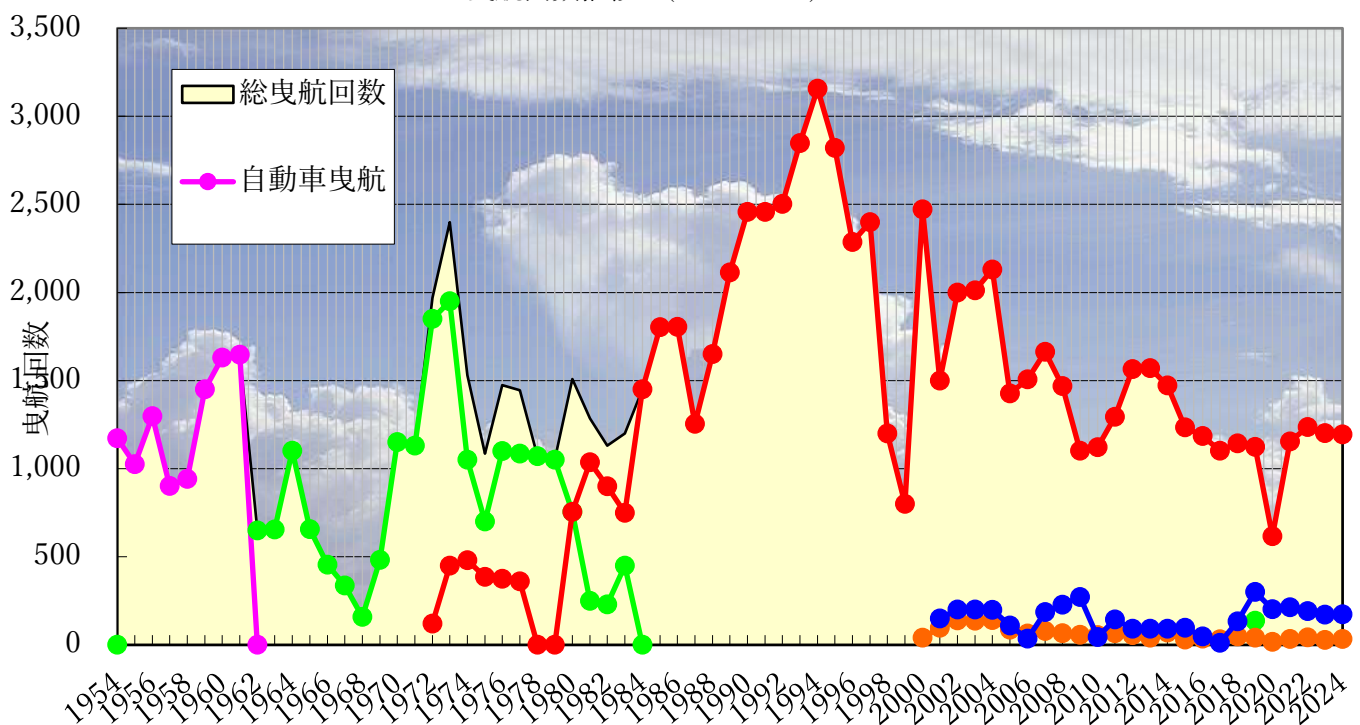
No.24-14	2024/11/30	エンジン格納が未完状態で飛行
No.25-01	2025/02/23	進入時、乱気流に遭遇しゴーア라운드（ハスキー）
No.25-02	2025/03/20	飛行中に後方からヘリコプターが接近

付-8. インシデント

No.24-01	2024/7/28	クラブ公用車アウディの損傷
No.24-02	2024/12/28	Dimonaのプロペラ破損
No.25-01	2025/1/18	リトリーブ車が後退時、他車両に衝突
No.25-02	2025/2/21	滑走路草刈り中の草刈り機排気管からの滑走路火災

付-9. 曳航回数推移

曳航回数推移（1954-2024）



付-10. 整備講習会 開催実績

- ・整備 日常基礎講習 令和6年4月28日、4月29日 8名
- ・整備 日常基礎講習 令和7年2月8日、2月9日 6名
- ・整備 FRP講習 令和6年8月24日、8月25日 4名
- ・整備 FRP講習 令和6年10月12日、10月13日 4名
- ・整備 FRP講習 令和7年2月24日、2月25日 4名
- ・整備 運整準備講習 令和6年5月26日、6月14日、6月15日、6月16日 6名

- ・整備 運整準備講習 令和6年5月26日、6月21日、6月22日、6月23日 2名
- ・整備 運整受験講習 令和6年8月31日、9月1日、9月21日、9月22日、11月2日、11月9日、11月10日、11月11日 2名受講 2名合格
- ・整備 運整実地講習 令和6年9月20日、9月21日、10月14日、10月15日、10月16日、10月26日、10月27日、10月28日 2名受講 2名合格
- ・整備 運整実地講習 令和6年9月27日、9月28日、10月18日、10月19日、10月20日、11月3日、11月4日、11月5日 2名受講 2名合格
- ・整備 運整実地講習 令和7年2月15日、2月16日、3月7日、3月8日、3月9日、3月22日、3月23日、3月24日 2名受講 2名合格
- ・整備 二整準備講習 令和6年6月8日、6月9日 4名
- ・整備 二整準備講習 令和7年2月22日、2月23日 3名
- ・整備 二整受験講習 令和6年8月17日、8月18日、8月19日 2名受講 1名合格
- ・整備 二整受験講習 令和6年9月28日、9月29日、9月30日 1名受講 1名合格
- ・整備 動力準備講習 令和6年4月20日、4月21日 2名
- ・整備 動力受験講習 令和6年7月20日、7月21日、7月22日 2名受講 2名合格

付-11. 「2023 板倉 OLC マンスリーコンペ」滑空競技会 結果

年間表彰

優勝	田上 研之
準優勝	吉岡 利典
クラブクラス最優秀賞	末松 久幸
クラブクラス最高点賞	吉岡 利典
クラブ機最優秀賞	舟本 勝
クラブ機最高点賞	末松 久幸
最優秀フライト賞	稲垣 政文
板倉最高得点賞	田上 研之
海外最高得点賞	桜井 玲子
OLC 特別賞	深沢 浩

JSC△飛行関係（新記録）

最長距離賞	田上 研之
100K△最高速度賞	稲垣 政文
200K△最高速度賞	市川 博一
300K△最高速度賞	田上 研之

月次表彰

	優勝	総得点賞
12月	中村 昌彦	末松 久幸
1月	末松 久幸	舟本 勝

2月	宇賀神 博	山田 倫太郎
3月	丸山 毅	田上 研之
4月	市川 博一	田上 研之
5月	田上 研之	舟本 勝
6月	発地 将貴	渡邊 泰啓
7月	津久井 潤	舟本 勝
8月	吉岡 利典	末松 久幸
9月	舟本 勝	大平 昌寛
10月	山崎 雅和	畠本 斉
11月	舟本 勝	津久井 潤

記

令和6年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和7年4月1日

公益社団法人 日本グライダークラブ

公益社団法人日本グライダークラブ

板倉滑空場

〒374-0101 群馬県邑楽郡板倉町除川 1286-1

TEL : 0276-77-0830 (運航時間中は不在の場合があります)

FAX : 0276-47-3013

ピスト携帯 : 090-4541-7493 (運航時間中のみ)

ホームページ : <http://www.glider.jp/>

Blog : <http://blog.livedoor.jp/japansoaringclub/>

Twitter : <https://twitter.com/japansoaringclub>

Facebook : <https://www.facebook.com/japansoaringclub/>

Instagram : <https://www.instagram.com/japansoaringclub/>